



去る8月2日(土)・3日(日)徳島市を会場に「第3回川に学ぶ体験活動全国大会 in 徳島」が開催されました。今大会は「2003吉野川フェスティバル」と同時開催で、大変熱気を帯びたものとなりました。

1日目は徳島県郷土文化会館を会場に体験活動発表会が行なわれました。広いホールが人で埋め尽くされ、用意した椅子が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。また、会場の壁にはポスターセッションの参加団体の報告が掲示され、会場の盛り上がりに一役かかっていました。

大会は、今大会の実行委員長、中村英雄氏(NPO「新町川を守る会」会長)のあいさつにより開幕しました。次にあいさつに立った大野重男氏(RAC代表理事)は、中村氏が長年にわたり地元徳島のためにご尽力なさっていることに触れ、今大会への期待を述べました。最後に、来賓として飯泉嘉門氏(徳島県知事)があいさつされ、開幕に華を添えました。

この後、岡山和生氏(国土交通省河川局河川環境課長)による基調講演が行なわれました。岡山氏は「川に学ぶ社会をめざして」をテー

発表団体

- ▼NPO法人 帯広NPO28サロン
- ▼福島県いわき市立 田人第一小学校
- ▼ふるさと侍従川に親しむ会
- ▼NPO法人 ねっとわーく福島潟
- ▼興津川保全市民委員会
- ▼日原町カヌークラブ
- ▼四万十川流域住民 ネットワーク
- ▼肱川流域会議水の中めがね
- ▼水みちマップ
- ▼九州東海大学白川 エコロジカルネットワーク
- ▼NPO法人新町川を守る会

マに、日本の歴史的見地から、川と人、ひいては子どもと学校教育についてなど、スライドを交えながら持論を展開されました。

川に学ぶ体験活動発表

発表は11団体によって行なわれました。

今回は新規に参加した団体が多く、RACの活動が全国に少しずつ広がりを見せていることが感じられ、感慨深いものがありました。



各団体とも、発表時間5分、質疑応答2分という限られた持ち時間の中で、自分たちの活動とそれにかかる熱い思いを語りました。それに呼応するように、パネラーのみならず、会場の各所から質問が飛び交い、こ

ちらも制限時間をオーバーすることがしばしばありました。発表された内容も、学校の総合学習や、地域ぐるみで河川環境の整備に取り組む様子、流域の自治体が連携して行政とのネットワークを構築するなど、さまざまなスタイルが登場し、参加した皆様には大いに参考になったようでした。

また、ポスターセッションでは28団体が参加・発表し、会場のあちこちで来場者に解説している姿が見受けられました。どのコーナーも日頃の熱意ある活動の様子がうかがえ、発表会に彩りを添えました。

発表の終了後はテーマ別分科会へと移りました。今回は5つのテーマに分かれ、活発な議論を展開しました。

分科会終了後、吉野川河川敷で開催されていた吉野川フェスティバルの会場で、交流会が催されました。「交流会」の名にふさわしく、全国各地から集まった人々が大いに語り合い、飲み明かし、踊り明かしました。

2日目は吉野川清掃からスタート

大会2日目は、午前7時より吉野川河川敷の清掃作業からスタートしました。早朝から高い気温の中で、前夜のフェスティバルでたゴミや、日頃は目に付かない場所まで、大勢の参加者によって徹底的に掃除され、遅れてきた人が拾うゴミがなかったほどきれいになりました。

ポスターセッション 参加団体

- ▼NPO法人水環境北海道
- ▼西滝沢地区子ども水辺協議会
- ▼NPO法人水環境ネット東北
- ▼福島県郡山市立第六中学校
- ▼せせらぎグループ
- ▼NPO法人あらかわ学会
- ▼大井川流域ネットワーク
静岡県島田土木事務所
- ▼しずおか流域ネットワーク
- ▼エコロジー研究会ひろしま
- ▼江の川カヌー公園さくぎ
- ▼プロジェクトR
- ▼加勢川開発研究所
- ▼四国河川文化ネットワーク
- ▼四万十流域住民ネットワーク
- ▼吉野川流域交流塾
- ▼吉野川ひがたの会
- ▼とくしま自然観察の会
- ▼吉野川交流推進会議
- ▼江川エコフレンド
- ▼北島南小学校
- ▼横見町をきれいにする会
- ▼アドプトネットワーク那賀川
- ▼那賀川流域フォーラム2030
- ▼阿南市立福井中学校
- ▼新町川を守る会





その後1時間半ほど一般の参加者とともにカヌー、Eボート吉野川川底見学などの体験活動に参加・協力しました。

最後に全体会が河川敷の会場で行なわれました。炎天のもと、日差しをさえぎるテントもない状況で、前日の分科会の報告会となりましたが、それぞれの成果が発表されると、会場からは惜しめない拍手が送られました。

全体会の後、中村実行委員長のご挨拶で「第3回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 徳島」はひとまず閉会とな



りましたが、その後も第十堰の見学、新町川・ひょうたん島クルーズなどのオプションツアーが催されたり、フェスティバル会場にとどまって今後の活動について意見交換が行なわれるなど、徳島の大会はその後も続いていました。

第一分科会

テーマ：「川での体験活動の実践」

コーディネーター

：斎藤 隆（RAC 事務局長）

：原 隆一（静岡県流域ネットワーク代表）

第二分科会

テーマ：「地域が支える川での教育」

コーディネーター

：細見 耕一（財団法人河川環境管理財団 研究員）

：太田 昇（NPO 法人帯広 NPO28 サロン専務理事）

第三分科会

テーマ：「川での安全と指導者像」

コーディネーター

：高木 伸治（プロジェクトR代表）

：小谷 寛二（呉大学社会情報学部教授）

第四分科会

テーマ：「川での体験活動の運営」

コーディネーター

：菊池 静香（NPO 法人水環境北海道 教育部長）

：荒関 岩雄（NPO 法人水環境北海道 専務理事）

第五分科会

テーマ：「四国・川に学ぶ全員集合」

コーディネーター

：矢部 拓也（徳島大学総合科学部 講師）

：西内 燦夫（四国河川文化ネットワーク 代表世話人）

皆様からの投稿をお待ちしています！

水辺の活動を展開していく中で、予期せぬハプニングに出会い肝を冷やした、という経験はありませんか？「水難白書」や新聞等で私たちが目にする事故の報告は氷山の一角に過ぎないといわれています。RACでは、報告されない小さな事故や、未遂で済んだ事例などを会員の皆様から投稿していただき、小冊子にまとめる企画を進行中です。大きな事故を防ぐには、小さな事故・ひやりとした経験から教訓を得て対策を高めることが重要です。投稿はメールで募集しておりますので、ぜひご参加ください。アドレスは rac@rac.gr.jp です。

【事例の整理項目】(1)現場の状況(天気・流況・地形等の自然の状況)、(2)人・物の状況、(3)ヒヤリ、はっとした出来事(できるだけ詳細に)、(4)検証 ※簡単な手書きの図があると判りやすくなるので助かります。

RACの総合学習支援活動について



今年度は、水辺サポートセンターの協力のもと、3カ所の小学校で、総合学習支援の一環として子ども水辺安全講座を出張開催しました。学習指導要領の変更

に伴い、子どもと川をいかに安全に結び付けていくかが、教育現場において急務となりました。しかしながら、水辺での活動に必要な技術を持つ教職員は非常に少なく、川での活動を支援する存在が求められています。RACでは今後もこのような活動を支援・協力をしていきますので、学校等から支援要請がありましたら事務局までご一報ください。折り返し必要な経費、書類、助成金の申請方法などをご連絡いたします。

RACオリジナル商品開発中!

先に販売したRACのロゴ入り子供用ライフジャケット（PFD）に続き、トレーナー用PFDや改良型子供用PFD、ファーストエイドキットなどさまざまなオリジナルグッズを企画し、製品化するプロジェクトが進行中です。今後はHPやメルマガで商品情報もお届けいたしますので、ご期待下さい。



RACでは会員を募集しています!

RACは川や水辺にかつての賑わいを取り戻すべく活動しています。しかし、現在は自分自身が川や水辺で遊んだ体験を持たない世代が多いのが実情です。

小さい頃、故郷の川に遊び、学んだという経験をお持ちの方は、ぜひ、次の世代にその貴重な体験を伝える仲間になっていただけませんか。当協議会では、個人・団体を問わず、ご協力いただける方を広く募集しております。

詳しくは、RAC事務局 03(3297)2644
またはホームページ <http://www.rac.gr.jp/>
をご覧ください!

RACトレーナー研修会報告

6月19日・20日に代々木国立オリンピック記念青少年総合センターにおいてトレーナー研修会が開催されました。この研修会は、RACに加入している団体からの推薦者が一堂に会し、フォロー講座の受講・今後のRAC指導者のあるべき姿などが討議されました。参加者はいずれも各団体において活躍されている方々ばかりで、研修内容も非常にレベルの高いものとなりました。

新しい理事が決まりました

6月21日に行なわれた平成15年度第一回理事会で、RACのNPO化にともない、より活動範囲を広げる意味で、新たに理事および顧問が追加されることが全会一致で了承されました。その結果次の方々が理事・顧問に就任されました。

新理事

小川信次氏（千葉県河川環境教育研究会）
木村 尚氏（NPO海辺つくり研究会）
田中克哲氏（磯遊び研究会）
内村政彦氏（北九州川塾）
原田秀夫氏（NPO白川わんぱく探検隊）

新顧問

山本雅史氏（河川環境管理財団理事）

RACの広報活動をご存知ですか?

RACのニュースレターは年に2回発行されています。ホームページも随時更新されています。その他にも、月に2回の割合でメールマガジンを発行しています。メルマガでは、最新のイベント情報などが掲載されています。これは、メールアドレスをお持ちの方ならどなたでもご覧いただけます。

送信をご希望の方は

HP <http://www.rac.gr.jp/>

